



ZENFUREN

2013年10月4・5日

号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

全附P連PTA研修会 第4回全国大会

女性会

ファーストレディーを迎えてスペシャルオリンピックス開催までの苦勞と現在の活動について、「PTAというボランティア活動とは」という女性ならではの講演をしていただきました。



今年度の女性会は「女性とPTA活動との共生・PTA活動から見えてくる未来像」というテーマで行いました。講師の細川佳代子様から、地方新聞でダウン症のともちゃんという10歳の女の子を知ってから、スペシャルオリンピックスを日本で開催するまでのお話を聞きました。子育てのすべては、お腹の中にいる時から始まっています。少し驚いたのですが、どんなに医学が発達しても2%は知的障害のある子が生まれるという統計があります。そう考えると「交流」はとても大切だと言うことがおのずと判ります。そんな知的障害のある子たちのために、スペシャルオリンピックスはオンリーワンを大切に、ゴールまでの過程を大切に、をモットーに熊本で活動が始まりました。年々その輪が拡がり、今では助成金で活動できるようになるまでになりました。スペシャルオリンピックスはその精神から落第者を誰一人として出さない、参加者全員を称えるという素晴らしいオリンピックです。ところで「交流」の原点はなんといっても触れ合うことです。それも早いうちに、子どものうちに触

れ合うことが大切になってきます。それには、やはりスポーツがよいでしょう。そうした機会に恵まれた特別支援学校のあるところは、少しでも早く、そして多く交流の場を作ってほしいと思います。質疑応答の中では、こういった活動をしていただいているお陰で、子どもが生活しやすい環境になりました、との声もきかれました。また、ある保護者から家族旅行中に船で障害者の団体と出会ったときの経験が話されました。いつもとは違う雰囲気の中、ちょっとしたきっかけから交流がはじまり、船の中で楽しく会話し、子どもたちもすっかり打ち解けたということです。やはり特別な目でみるのではなく、こちらからも積極的に声かけしたりすることが大切なんだということを感じました。

障害者だからといって、生まれてこなくてよかった命はありません。感謝して生きることができる人になってください。そして、保護者の皆さんも是非各学校へ帰られたら特別支援学校の生徒と触れ合っていたきたいと思います。いじめが満喫化して手につけられない学校が、障害の授業を12時間行った後はすっかり平穩になったという事例もあります。障害者だからと特別扱わずに、もっともっと積極的に関わってあげてください、と細川様からは大変素晴らしいお話を伺うことができました。参加者も真剣にお話を聞いていました。細川様が涙ぐんでお話される場面もあり、和やで、しかし熱い語りに感銘を受け、私自身も大変勉強になりました。素晴らしい女性会となりました。細川先生、ありがとうございました。



三重大学教育学部附属中学校育友会
会長 若宮理恵 取材